©英語多読教育研究会

タイトル	*The Lost Thing*				
著者（文・絵）	Shaun Tan				
出版年	2000 年	出版社	Lothian Children's Books		
翻訳版	『ロスト・シング』岸本佐知子訳、河出書房新社、2012 年				
総語数	919 語	ページ数	32 ページ	YL レベル	N/A

あらすじ

語り手である少年（といっても、幼い子どもではなく、ティーンエイジャーのように見えます。もしかしたら大学生かもしれません）が、ある日海岸で不思議な物体を目にします。それは赤くて巨大な物体で、鉄製の容器（のようなもの）から軟体動物みたいな手足が複数伸びています。甲殻類を思わせるハサミも一対あります。生き物とも機械とも判別のつかないこの異様な「何か」ですが、妙に愛嬌があり、砂浜で一緒に遊ぶうち、少年はすっかり仲良しになります。やがて夕方帰る時間になって、少年はその「何か」が“lost thing”、つまり誰かの「忘れ物」あるいは「なくしもの」ではないかと思い始めます。少年はこの「何か」の居場所を探そうと街中をさまよい歩きますが、持ち主は見つかりません。しかたなく家に連れて帰りますが、当然両親は汚いペットを連れて帰ったときのように冷たい反応です。どうしたものかと考えあぐねていた彼の目に、新聞の広告が飛び込んできます。「どこに置いたらいいかわからないようなものをお持ちのあなた、こちらにお持ちください！」

そこで、少年は赤い物体とともに、その場所を訪れるのですが…。

物語はバッドエンドではありません。でも、ハッピーエンドだとも言えません。赤い物体は幸せな居場所を見つけられたように見えます。でも、少年のほうはどうでしょうか。そして、少年の視点を借りてこの物語を読んでいるあなたはどうでしょうか。冷たい灰色の現代を生きる私たちの心のすきまに、赤い物体が問いかけてくるようです。「あなたはどこかに忘れ物をしてきていないだろうか」と。

紹介

ショーン・タンは、現在話題沸騰中の絵本作家です。2019 年の 5 月から 7 月にかけて、東京のちひろ美術館にて「ショーン・タンの世界：どこでもないどこかへ」という展覧会が開かれ、連日多くの来場者があったことからも、日本での注目度の高さがわかります。移民二世としてオーストラリアで生まれ育ったタンは、固定概念を覆すような斬新でユニークな作品を次々に発表しています。その作風は無国籍的・近未来的且つどこか懐古的で、温かなユーモアに溢れながら、社会諷刺もピリリと効いています。*The Arrival* (2006)、*Eric* (2010)、*Rules of Summer* (2013)、*Cicada* (2018)、そして村上春樹の短編から影響を受けたとタン自身が認める最新作 *The Tales from the Inner City* (2018)など、どれもこれも授業で使ったら大反響を呼びそうな作品ばかりです。特に、*The Lost Thing* は、映像クリエイターでもあるタン自身の手で映像化され、第 83 回アカデミー賞短編アニメ賞を受賞していますので、絵本と映像作品（DVD）を比較検討することもできます。

The Lost Thing は、おもちゃ箱のような絵本です。作者のタンもこの絵本の中に遊びの

©英語多読教育研究会

要素をふんだんに詰め込んでいます。物語を語る文字と絵は、新聞紙のような黄ばんだ台紙の上に貼り付けられるように配置されています。その台紙には、細かい文字や実験図などが細々と描き込まれています。物語を理解するのに、ここを隅から隅まで読む必要はないのですが、どうやら、ページによってはこの台紙の部分にタンがいたずらを施しているようです。じっくり読むと、まだ誰も気づいていないメッセージが埋め込まれているかもしれません。

タンの作品については、本 HP の *The Arrival*、*Cicada* のページもご参照ください。

指導ポイント、授業活用例、学生の声など

【過去分詞の効果】

タイトルの *The Lost Thing* は直訳すると「失われたもの」「なくされたもの」という意味になります。過去分詞の lost が使われているため、誰がなくしたのかが明示されません。これが、本作に深い解釈の余地を与えています。「誰が何をなくしたのか。」読み返すにつれ、この問いが読者に迫ってきます。“The lost thing”とは赤い物体ではなく、実は少年のほうではないのか。この解釈は、“Or maybe I’ve just stopped noticing them. Too busy doing other stuff, I guess.”という少年の最後の言葉と響き合います。あるいは、“The lost thing”とは私たち人間全体を指しているのかもしれません。だとすると、私たちはいったい何をなくしたのでしょうか。それとも私たちが lost 状態にあるのでしょうか。

主体を明示しない過去分詞形 lost と曖昧な名詞 thing の組み合わせから生まれる豊かな問いです。

【間テクスト性 (intertextuality)】

『批評理論入門』（廣野由美子著、中公新書、2005 年）によれば、「間テクスト性」とは以下のように説明されます。

> 文学テクストとは、つねに先行する文学テクストから、なんらかの影響を受けているものだ。つまり文学テクストは、孤立して存在するものではなく、他の文学テクストとの間に関連がある。この関連性を「間テクスト性」という。この概念を定着させたブルガリア出身の批評家ジュリア・クリステヴァ(Julia Kristeva, 1941-)によれば、あらゆるテクストは他のテクストを吸収し変形したものとされる。作品のなかで作者は、先行作品に言及したり、意識的、あるいは無意識のうちにそれについてほのめかしたりするのである。(p. 95)

「間テクスト性」は、もちろん文学作品だけでなく、テクストと呼び得るあらゆる芸術表象（映像作品や絵画、マンガ、歌詞など）にあてはまります。読者は、今読んで（見て）いる作品と以前に読んだ（見た）ことのある作品とを重ね合わせることで、それなしには気づき得なかった新たな解釈や知見にたどり着くのです。

ショーン・タンは、意図的に先行作品を模倣することで、読者に「間テクスト性」を意識させようとしているようです。日本語版の翻訳者である岸本佐知子氏によると、まず表紙の絵が、ジェフリー・スマートの絵画“Cahill Expressway” (1962)にそっくりですし、“The

©英語多読教育研究会

next morning we caught a tram into the city.”という場面の絵は、エドワード・ホッパーの“Early Sunday Morning” (1930)とジョン・ブラックの“Collins, St. 5 p.m.” (1955)を模して描かれていることは明らかです。実はタン自身が、最後のページの上のマージンに、こっそり“Apologies to Jeffrey Smart, Edward Hopper, John Brack”と書き込んでいるので、これは確信犯と言えるでしょう。(「企画展・ショーン・タンの世界展　どこでもないどこかへ」特別企画：柴田元幸・岸本佳代子対談、於ちひろ美術館・東京、2019 年 6 月 29 日より。)

筆者は、「赤い物体」の造型に宮崎駿の影響を感じました。宮崎映画『ハウルの動く城』に動く城にとてもよく似ています。タンは影響を受けたとは明言していませんが、両者が描こうとしているものに共通点があると考えると、タンの絵本の解釈がまた広がります。これが「間テクスト性」の醍醐味です。

【ポストモダン絵本 (post-modernist picture book)】

詳細は、本 HP の *Voices in the Park* のページを参照のこと。

【授業活用例】

➢ ポストモダン絵本を使ったグループディスカッション

この活動は、本 HP で紹介している他のポストモダン絵本 *I Want My Hat Back, The Doubtful Guest, Voices in the Park, Into the Forest, It Might be An Apple* などと組み合わせて行います（これらの絵本については、本 HP の他のページを参照のこと)。ポストモダン絵本は読者に多様な解釈を促すので、ディスカッションに用いると、参加者は 1 人で読んだだけでは気づくことのない新しい視点、物の見方に気づくことができます。

手順

Lesson 1

1. ポストモダン絵本とは何かについて教師が説明する。
2. 6 冊の絵本を学生に回し読みさせ、最も気に入った絵本を選ばせる。
3. 学生の第一希望を考慮しつつ、絵本ごとに 4 ～ 5 人ずつのグループを作る。
4. 次の授業までに、選んだ絵本についてあらすじ、登場人物の特徴、テーマ、その他ディスカッションで話し合いたい問いなどを準備させる（ワークシート配布、下記参照)。

Lesson 2

5. 選んだ絵本についてグループディスカッションを行う（30 分～45 分)。
6. ディスカッションで話し合った内容をクラスで発表する（各グループにつき 10～15 分程度)。発表の際には、パワーポイントや手書きのフリップなど視覚資料を使用するよう指示する。

【学生の声】

- 人間がみな同じ顔で無表情なのに対し、顔がない“lost thing”のほうが自由で生き生きして見える。

©英語多読教育研究会

- 筆者の言いたいことを一言にまとめると、「忙しい日々の中で、大切なものを見失っていないか」ということであると考えます。この本で描かれている人間は、モノクロで無表情で機械のようで、それが印象的ですが、このようになっていないか？ということを問うている本であると思います。人は大人になるにつれて、気にしなければならないことが増えてきます。数年前は“The lost thing”の存在に気づけていて、それを気にかけていた主人公ですが、最後のページでは“I see that sort of thing less and less these days though. Maybe there aren’t many lost things around anymore. Or maybe I’ve just stopped noticing them. Too busy doing other stuff, I guess.”と言っています。作者は、読者に「忙しい日々の中で、大切なものを見失っていないか」と問いたい訳ですが、主人公にこのように過去を振り返って"Or maybe I’ve just stopped noticing them. Too busy doing other stuff, I guess."と言わせることで、読者に「自分もそうかもしれない」と思わせようとしたのではないでしょうか。
- The last page of The Lost Thing shows a mysterious cleaning staff. This staff is the same as the lost thing in terms of being a strange creature. However, no one leads him to the utopia because people don’t see him. The busyness of people prevents them from noticing him. The last page shows the loneliness of the mysterious cleaning staff surrounded by busy people.

関連作品・参考 URL

【Tan による他のお薦め絵本】

- *The Red Tree* (Lothian, 2002)（『レッドツリー』早見優訳、今人舎、2011 年）
- *The Arrival* (Lothian Books, 2006)（『アライバル』小林美幸訳、河出書房新社、2011 年）
- *Eric* (Allen & Unwin, 2010)（『エリック』岸本佐知子訳、河出書房新社、2012 年）
- *Rules of Summer* (Lothian Children's Books, 2013)（『夏のルール』岸本佐知子訳、河出書房新社、2014 年）
- *Cicada* (Hachette Australia, 2018) （『セミ』岸本佐知子訳、河出書房新社、2019 年）
- *Tales from the Inner City* (Arthur A. Levine Books, 2018) （『内なる町から来た話』岸本佐知子訳、2020 年）

【Tan による映像作品】

- *The Lost Thing* (DVD)
  Tim Minchin (出演), Andrew Ruhemann (監督), Shaun Tan (監督)

備考

本稿の一部は大修館『英語教育』2019 年 12 月号（Vol.68, No.10）の口絵「絵本を探しに」[9]の原稿を大幅に改訂したものです。

©英語多読教育研究会

cf. 参考ワークシート

Reading Picture Books for Shared Reading

Student ID _____ Name _____

Title of the picture book you chose _____

Before the Discussion

➢ What are the objective facts of the story? List them below.

_____

_____

_____

_____

➢ Fill out the table below.（Character の数は作品によって適宜変更）

	Character A	Character B	Character C	Character D
How old is he/she?				
What can we tell about the character from the way he/she speaks or behaves?				
Anything else in the book that gives information about the character				
What page is the most important for the author (1)? Find the core idea (2) of the picture book.				

©英語多読教育研究会

© Just Imagine Story centre Ltd.

注(1), (2)

作者の視点を意識させるための問いです。作者がその本の「肝（きも）」であると考えているページはどこかを探します。Core idea とはその「肝」のことです。本の「核」となるアイディア、あるいはその本の「種」と言えばいいでしょうか。作者はなんとなく本を書き始めているわけではなく、なんらかの「種」から本を育てていくと考えられます。それは必ずしも明確なメッセージやテーマではないかもしれません。しかし、その「種」がなければ、その本は生まれなかったような「着想の原点」が本のどこかに隠れているはずです。それを、作者が描き込んだ言葉やイラストの中に探す活動です。もちろん、決まった解答はありませんので、ディスカッションで最も盛り上がる問いです。

During the Discussion

Write two questions that you would like to ask your classmates. Then provide answers to the questions.

Question 1 + your answer（事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する）

Your classmates' answers （ディスカッション中にメモする）

Question 2 + your answer（事前に用意しておき、ディスカッション中に発表する）

Your classmates' answers （ディスカッション中にメモする）

After the Discussion

Write a short review of _____ (title) for class presentation

_____ (title) is about _____

_____

_____

_____

_____

_____

What attracts the reader to this book is that _____

_____

_____

©英語多読教育研究会

（文責：深谷素子）